

報道機関各位

北九州国際映画祭2024開催

—映画祭で市民が世界とつながる—

名称

北九州国際映画祭2024
Kitakyushu
International
Film Festival 2024



「北九州国際映画祭2024」ポスター

コンセプト

世界で最も映画愛に満ちた映画のエコシステムをつくる

2つの柱

- ①映画で挑戦するすべての人を応援
- ②世界一映画を愛するコミュニティの形成

日程

2024年11月1日（金）・2日（土）・3日（日）
ウェルカムセレモニー・オープニングセレモニーなど／11月1日（金）
上映・ワークショップなど／11月2日（土）・3日（日）
後夜祭／11月3日（日）

上映会場

Theater I J:COM北九州芸術劇場中劇場
(小倉北区室町1丁目1-1 リバーウォーク北九州内)
Theater II 小倉昭和館 (小倉北区魚町4丁目2-9)
Theater III 船場広場 屋外イベント会場
(小倉北区船場町3-10)
※食のイベント&屋外上映会等を実施予定

※他会場追加予定

プログラマーお二人からのコメント



松居大悟 監督

Daigo Matsui

北九州国際映画祭2024、開催おめでとうございます。
北九州で生まれて、東京に来て20年の自分が、
こうして微力ながら関われるのは嬉しいです。
何度だって立ち上がる北九州の逞しさと、
映画の眩さを信じています。
映画祭が人生の小さなきっかけになりますように。

<松居大悟 監督 プロフィール>

1985年福岡県北九州市生まれ。劇団ゴジゲン主宰。2012年『アフロ田中』で、長編映画初監督。その後、『ワンダフルワールドエンド』('15) でベルリン国際映画祭出品、『私たちのハアハア』('15) でゆうばり国際ファンタスティック映画祭2冠受賞、『アズミ・ハルコは行方不明』('16) は東京国際映画祭・ロッテルダム国際映画祭に正式出品された。クリープハイプやドレスコースなどのMVを手がけるほか、テレビ東京系列『バイプレイヤーズ』シリーズのメイン監督も務めた。2021年には自身初の小説『またね家族』を刊行。2022年に公開された「ちょっと思い出しただけ」は東京国際映画祭にて観客賞とスペシャルメンションをW受賞のほか、ファンタジア国際映画祭2022で部門最高賞となる批評家協会賞を受賞。さらに日活ロマンポルノ50周年映画「手」が、第52回ロッテルダム映画祭「ハーバー部門」に正式出品された。最新作に「不死身ラヴァーズ」（脚本・監督）がある。



犬童一心 監督

Isshin Inudo

北九州国際映画祭がこれから未来へ向け、愛されて、大きく育って行くためにがんばりたいと思います。
映画は作り手だけでできません。最後は観客の人生をスパイスに、それぞれの中で完成するものだと思います。映画祭にもぜひ参加してください。共に魅力的な空間を作りましょう。
楽しいゲストもきっと映画愛を語ってくれる。お楽しみに！
締めは、水野晴郎さんの言葉をお借りします。
「いやあ、映画って本当にいいもんですね」。

<犬童一心 監督 プロフィール>

1960年生まれ。高校時代より自主映画の監督・製作をスタート。高校時代にぴあフィルムフェスティバルに入選。大学卒業後CMディレクターとして活躍。『二人が喋ってる。』(97)で映画監督協会新人賞。市川準監督『大阪物語』(99)の脚本により商業映画の世界へ。『ジョゼと虎と魚たち』(03)により芸術選奨新人賞。『メゾン・ド・ヒミコ』(05)により芸術選奨文部科学大臣賞。その後『タッチ』(05)、『黄色い涙』(07)、『眉山 びざん』(07)、『グーグーだって猫である』(08)等、話題作を発表。『ゼロの焦点』(09)で日本アカデミー賞優秀作品賞・監督賞・脚本賞、さらに『のぼうの城』(12)で日本アカデミー賞優秀作品賞・監督賞を受賞。テレビ版「グーグーだって猫である」(14)で放送文化基金賞。その後、『引越し大名！』(19)、『最高の人生の見つけ方』(19)、『名付けようのない踊り』『ハウ』(22)など。
CM「詐欺は防げる」ACC金賞「オリコJUクレジット」ACC銀賞 他受賞多数。

世界一映画を愛するコミュニティの形成

上映プログラムについて

* 上映プログラム内容や作品は現時点での予定変更の可能性有り

アドバイザー



木全純治 氏

1983年、若松孝二監督の誘いにより、シネマスコーレ支配人となる。1996年より「あいち国際女性映画祭」のディレクターとなり、来年30周年を迎える。2021年スコーレ映画塾を開塾、22年にシネマスコーレの代表。24年「青春ジャック止められるか、俺たちを2」をプロデュースする。



撮影：塩見浩介

鈴木一 氏

オリオフィルムズ代表。
『青い嵐』『太陽の少年』『阿片戦争』『鬼が来た!』等の一般公開を実現させる。(株)ワコー入社、初期韓国ドラマブームの仕掛け人として寄与する。2011年独立してオリオフィルムズを設立。主にアジア映画の配給宣伝を行う。「台湾巨匠傑作選」主催者。

アドバイザー & 学生セレクションプログラマー



西谷郁 氏

福岡インディペンデント映画祭国際担当。日本映像学会西部支部幹事。西南学院大学・九州産業大学ほか非常勤講師。専門はアジア映画研究。アジア映画や映像ワークショップをプロデュース。

上映作品予定数

20作品

KIFFプレミア作品

海外作品を主に、日本/九州初の作品を上映予定

3作品

松居大悟・犬童一心セレクション

北九州市出身の松居大悟監督が『これからの視点』をキーワードに独自の視点で「もっと観てほしい・知ってほしい作品」をセレクト。

犬童一心監督も推薦作品をセレクト予定

7作品

北九セレクション

北九州ゆかりの映画を対象に市民・映画ファンの投票で上映作品を選定

1作品

まちなか映画館

船場広場での屋外上映

2作品

その他

別途実施する「北九州NEXTムービーワークショップ」「ショートムービーコンテスト」「国際短編部門：学生セレクション」などの関連映画を上映予定

その他北九州ゆかりの映画・映画人に関連したセレクション等調整中

7作品

映画で挑戦するすべての人を応援

各種ワークショッププログラム

北九州NEXTムービーワークショップ

映画祭開催中の2日間に、「映画づくりに関わりたい」学生や市民の方々を対象に犬童監督の監修のもと、実際に映画を撮影編集し、開催の最後に上映、優秀作品を表彰（予定）

講師/監修：犬童一心監督 プロデューサー：金石智宏 氏

協力：北九州フィルム・コミッションほか



【北九州NEXTムービーワークショップ】
講師・監修／犬童一心監督

ショートムービーコンテスト

誰でも気軽に参加できるオリジナルのショートムービーを募集し、優秀作品を上映・表彰（予定）

※「小中学生の部」「一般の部」の2部門を設定

未来をひらく子ども映画プロジェクト

教育委員会や市内映画製作団体と連携し、小中学生を対象に映画作りについて学ぶワークショップを開催

国際短編部門：学生セレクション

大韓民国プサン広域市で毎年開催され、今年で41回目を迎えたプサン国際短編映画祭(BISFF)から優秀作品をセレクト

世界の短編作品を北九州市の大学生等が鑑賞しディスカッションを行い、学生が優秀作品を選び表彰（予定）

プログラマー：西谷郁 氏（映画研究者）

協力：北九州市の学生

連携：プサン国際短編映画祭



プログラマー／西谷郁 氏

その他映像業界とのマッチング等をテーマにしたセミナー等を開催予定

【お問い合わせ】

北九州国際映画祭実行委員会事務局
都市ブランド創造局MICE・エンターテインメント課
担当：秋吉、片山 電話：093-551-8152